＜認知症対応型共同生活介護用＞
＜小規模多機能型居宅介護用＞

評 価 結 果 報 告 書

事業所番号	1475100119
法人名	株式会社 アイ･ディ･エス
事業所名	グループホーム　第2バナナ園
訪問調査日	平成22年9月8日
評価確定日	平成22年10月25日
評価機関名	株式会社　R－CORPORATION

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	8
1．理念の共有	1
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	2
5．人材の育成と支援	0
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3．多機能性を活かした柔軟な支援	0
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1．その人らしい暮らしの支援	4
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

○項目番号について

外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

［取り組みの事実］
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
［次ステップに向けて期待したい内容］
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営･運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 ＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者･職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成　22　年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475100119	事業の開始年月日	平成12年4月1日
		指定年月日	平成12年4月1日
法人名	株式会社 アイ・ディ・エス		
事業所名	グループホーム　第2バナナ園		
所在地	（　〒212-0055　） 川崎市幸区南加瀬3-7-23		
サービス種別 定員等	□　小規模多機能型居宅介護	登録定員　名 通い定員　名 宿泊定員　名	
	■　認知症対応型共同生活介護	定員　計　8 名 ﾕﾆｯﾄ数　1 ﾕﾆｯﾄ	
自己評価作成日	平成22年8月28日	評価結果 市町村受理日	平成22年12月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

１、当社の理念に基づき楽しく、明るく、自由に、尊厳を重視し、個性を大切にして家族的雰囲気を作っている。
２、日常生活の中に個々に役割を持って頂き自立への支援を心がけている。
３、民生委員、介護相談委員、地域住民との交流により施設への理解が深くなっている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　**R-CORPORATION**		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8　ＳＹﾋﾞﾙ２Ｆ		
訪問調査日	平成22年9月8日	評価機関 評価決定日	平成22年10月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

このホームの特徴
①経営母体は株式会社アイ・ディ・エスで、バナナ園生田の杜を新たに加えて、グループに7つのグループホームを持っている。オーナーはグループホーム経営に大きな理想を持ち、その保有するノウハウを生かしてホーム運営を進めている。施設の長にその運営の自由を与えているため施設長のポリシーが反映された特色あるホーム展開が為されている。このホームは川崎市の東部でJR横須賀線新川崎駅から徒歩２０分、東横線元住吉駅からバスで１０分の住宅地にある。ホームは旧産婦人科医院を改良した１ユニットで定員は8名、３Fはケア付き高齢者住宅で、訪問介護を展開している。利用者、職員共に明るく、近隣との協調体制に気を配り、各種イベントは家族の協力を得て行っている。利用者にとって、食す事は最大の楽しみであり、命のスプーンと云われる食事担当職員がメニューを決め、利用者と一緒に買い物に行き、栄養のバランスをドクターに見てもらい、カロリー計算をして手作りで提供している。
②運営推進会議については３ヶ月に１回程度に留まっている。メンバーは自治会長、地域代表の方、川崎市幸区の介護保険課の職員の方、市相談員、ご家族、入居者、職員の構成で、オブザーバーとして地域包括支援センターからもご参加を頂いている。幸区の介護保険課の職員の方は必ずご出席頂き有難く思っている。ご家族については全員に声をかけ、都合のつく方が出席し、参加したご家族の利用者本人も出席しているテーマではご家族の質問、行政の情報、民生委員の問いかけなどあるが、マンネリ化しない工夫を考えている。ご家族は比較的、度々訪問頂き、ターミナルを含めて協力関係にあり、看取りも経験している。認知症デイが出来る体制にあるが、以前の２名の利用者が入居となり、現在デイの利用者はいない。今後も認知症デイの活用を図って行きたい。以前、訪問していた音楽療法を卒論としていた音大生が、大学卒業後、音楽療法の専門家になっても継続して月2回来てくれている。正式な音楽療法としてアセスメント（グループの様子、席、楽器名、職員の感想etc.）を記録に残して実施し、ミュジックセラピーの効果で自己の意思表示、喜怒哀楽の豊かな表現が助長されている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
Ⅰ　理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
Ⅴ　アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム　第2バナナ園
ユニット名	

Ⅴ　アウトカム項目

No.	項目	評価	選択肢
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1，ほぼ全ての利用者の
			2，利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1，毎日ある
			2，数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36,37）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

No.	項目	評価	選択肢
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1，ほぼ全ての家族と
			2，家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）	○	1，ほぼ毎日のように
			2，数日に1回程度ある
			3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	1，大いに増えている
			2，少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1，ほぼ全ての職員が
			2，職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての家族等が
			2，家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

自己評価	外部評価	項　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人々と、交流を深め、事業所の理念を理解して頂き、また、管理者と職員はケア会議や朝礼の申し送りなどで話し合いを行っている。	朝礼や、申し送り時にカンファレンスを取り入れ、理念が正しく実践されているかを日々、話し合っている。地域の人達と、交流を深めながら、事業所の理念を理解して頂き、その人らしく、自由で、明るく、楽しく、暮らしが出来る様、支援している。	今後も継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「バナナニュース 」やホームページなど、挨拶、回覧や、七夕の笹等を提供して頂いたりのこうりゅうをしている。	入居者が施設の中のみで過ごすことがないように積極的に買い物、散歩を行い、祭りや町内の行事に参加し、「バナナニュース 」の配布、挨拶、回覧版の回覧、七夕の笹等の提供などの交流を実施している。地域の皆様にも声をかけて頂いている。夏休み中「職業実習」として地元中学生を順次受け入れており、交流が図られ地域活動の幅を拡大している。	今後も継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の推進会などやイベントを行い、理解や支援をお願いしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域住民、民生委員、行政の方々に参加して頂き、意見交換をし、サービス向上に活かしていく。	運営推進会議については、３ヶ月に１回程度に留まっている。メンバーは自治会長、地域代表の方、川崎市幸区の介護保険課の職員の方、市相談員、ご家族、入居者、職員と云う構成で、オブザーバーとして地域包括支援センターからもご参加を頂いている。ご家族については全員に声をかけ、都合のつく方が出席し、参加したご家族の利用者本人も出席している。	今後も継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の方とは推進会で意見交換質疑応答など連携してサービスの向上に活かしていく。	市職員とは運営推進会議への出席で有意義な質疑、応答があるが、常にＴＥＬ、ＦＡＸ、メール等で連携を図り、アドバイスを頂きんがらサービスの質の向上に取り組んでいる。生活保護の方もいるので、その関係の担当との連携も出来ている。	今後も継続

自己評価	外部評価	項　　　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、ゼロの手引き等や諸条例を基にケアに取り組んでいるが、玄関には外に出るとすぐに道路で交通量があるため、施錠しています。	身体拘束に関しては、ゼロの手引き等や諸条例を基にケアに取り組んでいる。玄関には外に出るとすぐに道路で交通量があるため施錠してるが、３階の屋上の利用、２つのリビングの有効活用、居室から隣の中学校が見渡せるなど閉塞感の無いケアを進めている。	今後も継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ケア会議などを開き、虐待防止法などについて学び、異常に気付いた場合は全員で直ぐに対応する様話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市職員、弁護士との話し合いの場を持ち学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設の見学、希望がある場合は体験入所や面談などで、充分な説明を行意、理解納得をしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に記載し説明したり、市や国保連の相談窓口の電話番号等、分かりやすく提示し、意見箱を設置し意見を頂けるようにしている。	ケアマネを兼務する管理者が利用者の状況を毎月、文書でお知らせし、面会時や、電話等でも話す機会を設け、ご家族への情報提供に努めている。重要事項説明書に記載し説明したり、言いにくい意見については、市や国保連の相談窓口の電話番号等、分かりやすく提示し、意見箱を設置し意見を言いやすいように努めている。	今後も継続

自己評価	外部評価	項　　　　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や、ケア会議を通じ意見交換を行い、本部での管理者会議時に提案し、反映させている。	朝礼や、ケア会議を通じ意見交換を行い、本部での管理者会議時に提案し、反映させている。職員の個別の面接等の実施も併せて行い、心身のケアを心がけている。心があれば介護は出来る、利用者に良い対応が出来れば技術は後から付いて来ると常に周知している。	今後も継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフトの調整、健康管理を行い、意見や工夫を活かす場とする。 各種講習会の案内を掲示して参加を呼びかける。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部主催の講習会や外部主催の講習会に積極的に参加し、事業所内での勉強会を受け日々業務に生かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者との勉強会に於いて互いに施設を訪問し合い情報交換し、各々活かし反映させている。又、入居者が当事業所が受け入れる不可の場合は、同業他社を紹介している。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の意見を伺った上でご本人との話す機会を多くし不安なく過ごして頂ける様に努力している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、度々接する時間を設け何時でも不安なことや求めていること等、話しあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設内を見学して頂き、本人や家族の意見を聴き、不安に感じていること等を把握し、必要としている支援が行えるよう、努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者とコミューニケーションをとり、喜怒哀楽を共感し、本人が「必要とされている」と感じられるよう、自信をもっていただき、入居者、職員が共に過ごし、支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の入居前と入居後の生活を情報交換し家族と一緒に本人を支援出きる様に努める。面会時、本人の居室で一緒にお茶を飲んで頂き、近況報告や相談を交え支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、近隣、馴染みの面会を歓迎し外出の機会を自由に行っている。又、以前使用していた家具、寝具、食器等身の回り品を居室で使用している。	友人、近隣、馴染みの面会を歓迎し、外出の機会を自由に設けている。近隣との関係を深め、ここが自分の家と思えるよう努めて行きたい。	今後も継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループ生活の中で各々の個性を大切にレクレーションや、おやつ作りを通して一緒に活動できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了し退所するとき、今後、何時も相談を受ける旨を伝える。その後も訪問したり電話したり交流している。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	困難な問題はフェースシート、アセスメントにもとずき、本人の視点から支援出きる様、関係者全員でカンファレンスをもち、本人本位に職員全員で把握し情報を共有する。	困難な問題はフェースシート、アセスメントに基ずき、本人の視点から支援出きる様、関係者全員でカンファレンスをもち、本人本位に職員全員で把握に努め、情報を共有するようにしている。職員は日頃の利用者の思いを記録し、モニタリングに役立てるようにしている。	今後も継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで以前の生活歴を入居後の生活環境作りに活かし、その人らしい安心した生活が送れるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル、食事、水分摂取量、排泄、顔色や表情を常に観察、傾聴し、記録、業務日誌等で総合的に把握に努めている。スタッフ全員と連携し検討しながら、情報を共有する。		

自己評価	外部評価	項　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者全員が入居者の状態像を把握し意見を反映し、入居者の視点に立った個別具体的な介護計画となっている。 ＩＣＦ方式をベースとし家族の同意を得ている。	ＩＣＦ方式をベースとし、関係者全員が入居者の状態像を把握し、意見を出し合って反映し、入居者の視点に立った個別具体的な介護計画を作成・実施している。介護計画は本人の希望、ご家族の意見を反映して作成し、必ずご家族の同意を得ている。	今後も継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者全員の個別記録に気づきや工夫を記入し、全員の話し合いの中でケアプランに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族等の状況を考慮しながら、見直し、工夫を活かし、グループ「力」の活用を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	専門の音楽療法士による音楽療法や民生委員及び、相談委員の方も協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導で往診、訪問看護をして頂き指示を受けている。管理指導医とは緊急時のマニュアルも取り決めがある。	みなとメディケアと提携し、居宅療養管理指導で往診、訪問看護をして頂き指示を受けている。管理指導医とは緊急時のマニュアルも取り決めがある。看護師の勤務により２４時間対応体制が出来ている。	今後も継続

自己評価	外部評価	項　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間気軽に相談可能な看護師による健康管理をして頂き緊急時の取り決めもマニュアル化されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と協働しながら医療機関と三者一体となり退院に向けた支援の体制を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応はマニュアル化されており家族の了解を得ている。終末期のあり方も家族と話し合い方針を共有している。 日常の健康管理の記録を行い、異変変化の早期発見に努め異変時は医師の指示を受け度合により家族と話し合い、方向性を決めている。	重度化した場合の対応はマニュアル化し、ご家族の了解を得ている。終末期のあり方も家族と話し合い、方針を共有している。日常の健康管理の記録を行い、異変変化の早期発見に努め異変時、終末期のあり方については医師の指示を受け、度合により家族と話し合い、方向性を決めている。	今後も継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連携、連絡体制により医師の指示のもとで応急手当を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと避難訓練、消火訓練、救助訓練を行っている。毎年消防点検も行っている。	消防署の指導のもと避難訓練、消火訓練、救助訓練を行っている。毎年消防点検も行っている。防火管理者による消防計画を川崎市へ提出して訓練を重ねていく。	今後も継続

自己評価	外部評価	項　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等も充分注意した言葉使いをしている。何気ない言葉掛けの場合でもその人を尊重する心がけをしている。	一人ひとりの記録等も充分注意した言葉使いをしている。何気ない言葉掛けの際にも、その方を尊重するに心がけている。カンファレンスでも話し合うように努めている。	今後も継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各々が家族で生活している空間を作り、思いや希望を自由に表現しやすい、ゆとりのある暮らしが出来る様支援している。個々が家族と生活しているような話しかけをし、その人に理解しやすい言葉で、自分の思いや、希望を表わせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞きいれ、一人ひとりのペースに合わせた一日の流れになっている。生活リハビリや、身体を動かすレクレーションも取り入れ、ある程度の刺激も支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを尊重し、好きなものを選択していただいている。 理美容も本人、家族の好みに合わせた支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	目で楽しみ、嗜好も満足し、食事することが喜びになっている。 配膳、調理、片付け等入居者が進んでスタッフと一緒に喜んで参加している。	食べることは最大の楽しみであり、命のスプーンと云われる食事担当職員がメニューを決め利用者と一緒に買い物に行き、栄養のバランスをドクターに見てもらい、カロリー計算をして手作りで提供している。目で楽しみ、嗜好も満足し、食事することが喜びになっている。配膳、調理、片付け等入居者が進んでスタッフと一緒に喜んで参加している。	今後も継続

自己評価	外部評価	項　　　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は入居者の希望を取り入れ個々の栄養バランス等はＤｒと相談しながら決めている。水分摂取量は時系列表で適正量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立度に応じた声かけ、誘導、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。重度化が進みリハパン等の使用は止むを得ないが、トイレでの排泄を心がけている。	今後も継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取、食材、日常生活動作、レクレーションに体を動かす行為を取り入れたり、本人の意欲向上の工夫をおこなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間はある程度決めているが、楽しく、リラックスして入浴出来る様支援している。	入浴時間はある程度決めているが、利用者が楽しく、リラックスして入浴出来る様支援している。車椅子でシャワー浴中心の方もいるが、極力、浴槽に入って頂くよう支援している。	今後も継続

自己評価	外部評価	項　　　　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れは計画しているが本人の体調、意志を尊重して其の都度、臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連絡ノートや、服薬チェック表、各記録を通じて支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法等で気分転換や楽しみを支援し、また入居者同士のコミューニケーション増やす工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と話し合い出来るだけ家族と一緒に外出できる様支援している。	外出は日を決めずに、当日の天気の状態と本人の体調、状態を観察の上、極力外に出るよう支援している。家族と話し合い、出来るだけご家族と一緒に外出できる様、支援している。	今後も継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して少額の金銭を持って頂いている。時には、職員と買い物に行き、自分で支払が出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	育成しやすい植木鉢等を入居者の好みで世話が出来る様になっており個々のスナップ写真、作品を配置している。	育成しやすい植木鉢等を入居者の好みで世話が出来る様に工夫したり、個々のスナップ写真や作品を飾り、入口のリビングにはカラオケの歌詞を貼って生活感に配慮している。食堂は食事の他、会議に使用している。以前の音大生が音楽療法の専門家になり、尚継続して月2回来てくれており、様々に楽しめる空間作りを工夫している。	今後も継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分には各々の好む椅子があり、リラックスしている。 気の合った入居者は、お互いに個室を訪問し合っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた寝具、好みのカーテン、好きな置物などで居心地の良い空間作りを工夫している。	以前使用していた家具、寝具、食器等身の回り品を持ち込み、居室で使用している。また、本人好みのカーテンや好きな置物などで居心地の良い空間作りを工夫している。	今後も継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者に合わせたトイレ、廊下、個室の手すり設置、廊下の段差の解消、ベットのサイドレール等、自立した行動が出来る様工夫している。		

目　標　達　成　計　画

事業所　グループホーム　第２バナナ園

作成日　平成22年9月8日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地元の方々と交流する為に地域の活動に参加協力していく。	地元の方々と交流がなされている。	町内会の活動に参加する。	随時
3	4	地域の高齢者に推進会、イベント等の参加を声かけして相談に乗ったり、一緒に楽しい機会を持つようにしていく。	地域の高齢者と交流がなされている。	幸区の民生委員を通して案内状を出し推進会、音楽療法等の参加をよびかける。	２か月に１回または、イベント（クリスマス、お花見等）
5	16	家族の意見、不満、苦情等を解決し、納得して頂き快く安心して当施設を利用して頂く。	家族、入居者とスムーズにコミュニケーションがとれている。	家族、管理者、職員の他に第三者等、本部の専門家の意見もとりいれて行く。	随時
4	14				
2	20				

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注2）項目数が足りない場合は、行を追加すること。

㈱R-CORPORATION外部評価事業部